

## ドイツ語 (初級 B) 第 16 回 授業ガイダンス (新規履修者向け)、前期期末試験の解答と解説

範囲: ドイツ語 (初級 A) の前期期末試験

- \* ドイツ語 (初級 B) の授業回数は前期のドイツ語 (初級 A) からの通算で表示する。授業第 16 回=後期第 1 回。
- \*\* 前期期末試験の解答と解説については、模範解答 (別紙) を参照。

### I 授業ガイダンス (新規履修者向け)

#### 1. 後期「ドイツ語 (初級 B)」からの新規履修者について

- ◇ 長谷川担当のドイツ語 (初級 B) を履修する人のなかには、以下の
  - 1) 前期にも長谷川担当のドイツ語 (初級 A) を履修しており、後期から時限だけ移った
  - 2) 前期には別の先生のドイツ語 (初級 A) を履修していたが、後期から長谷川の授業に変えた
  - 3) 前期には別の初修外国語を履修していたが、後期から長谷川担当のドイツ語 (初級 B) に変えた
  - 4) 昨年度、後期分の初修外国語単位を取得できなかったため、今年度の後期は長谷川担当のドイツ語 (初級 B) を履修すると決めた

パターンに該当する人がいるはずである (これ以外の場合は個別に申告してください)。

- ◇ このうち、1)の人については、特に問題は生じない (1 限、3 限、4 限ともに同進度だから)。
- ◇ それ以外の 2)~4)の新規履修者は、
  - ・2)の人は、この授業はほかの先生の授業よりもおそらく進度がはやいため、自分がまだ習っていない部分を自習しておく必要がある (やり方については後述)。
  - ・3)の人は、この授業の前期の内容をすべて自習しておく必要がある (同上)。
  - ・4)の人は、昨年度に長谷川担当のドイツ語 (初級 A) を履修していたのであれば 1)と同じ扱い、それ以外であれば 2)か 3)と同じ扱いになる。

#### 2. 授業ガイダンス (概略のみ)

- ◇ 上記の 2)~4)に該当する人のため、知っておくべきことを軽く説明しておく (前期の第 1 回に行ったガイダンスの概略)。
- ◇ 授業で使用するものは、
  - ・教科書: 中島悠爾/平尾浩三/朝倉巧『練習中心 初級ドイツ語文法<コンパクト版>』白水社、2009 年 (2300 円)
  - ・独和辞典 (後述)
  - ・毎回の配付資料: 授業開始前、通路側一番前の机のうえのプリントを各自で回収して授業に臨む。
- ◇ ほか、授業のウェブサイト (<http://hasegawa.la.coocan.jp/lecture/2024/2024tusDeutschAB.html>) が存在する。ここでは、
  - ・毎回の**進度についての情報**
  - ・その回の**配付資料** (PDF ファイル)を掲示しているので、授業を休んだ場合などは活用してほしい。ただし、著作権的な問題が生じる配付物に関しては、本授業の LETUS ページに掲載する場合がある。

- ◇ 上記の 2)～4)に該当する人は、
- ・長谷川担当のドイツ語（初級 A）で学習済みの部分、**教科書第 9 課（38 ページ）まで**を自習する。
  - ・その際、教科書の説明不足を補うため、教科書とあわせて、授業ウェブサイトに掲載してある配付資料第 1 回～第 14 回も読んでおく。
    - 特に、**授業第 1 回配付資料（授業ガイダンス）**は重要で、いま説明している内容がさらに詳しく解説されている。
    - 次に、授業第 3 回に配付した「**ドイツ語基本例文 100**」が重要。教科書の練習問題から抜粋した例文 100 で、小テストや期末試験の聞き取り問題はここから出題される。ネイティブスピーカーによる読み上げも CD で聞くことができる（CD 再生装置を持っていない履修生は、個別に申告してください）。
    - ・（未所持の場合、）**独和辞典**を購入する。独和辞典の買い方は、やはり授業第 1 回配付資料に掲載。
- ◇ 授業は主に、以下のプロセスで構成される。
- ・教員による文法事項の解説（教科書を進めていく）。
  - ・教員が学生を指名し、教科書の練習問題や配付資料（後述）の課題などに解答してもらう。
  - ・ほか、必要に応じて、2 人一組になってもらい会話の練習をする、1 人ずつ指名して長文を 1 行ずつ読んでもらう（いずれも教材は配付資料として用意する）、など。
- ◇ 成績のつけ方は、
- ・シラバスにあるように、「平常点 30%、小テスト 20%、期末試験 50%」を基本とするが、ほかにもいくつか加点要素や救済措置を設ける。これらについては、口頭および掲示（後述）で伝える。
  - ・平常点については、きちんと授業に参加したかどうかを判断基準とする。ただし、やむを得ない事情で授業を欠席した場合、一定の配慮もするので、メール（後述）で連絡してもらいたい。
  - ・2022 年度より成績評価に相対評価が持ち込まれ、S や A の割合制限（50%程度）が課せられている。例えば、シラバス基準で全員が 80 点以上を取得したとしても、必ず S や A がつくとは限らない。
- ◇ 学生・教員間の連絡は、
- ・教員 → 学生：  
授業中に口頭で行うほか、小テストや期末試験の情報のような重要事項に関しては、CLASS でも掲示を行う。学生は必ず CLASS にメールアドレスを登録し、掲示があり次第メールを受信できるようにすること（過去、これをしなかったため、期末試験の日時を勘違いして受験できなかった受講生がいた）。
  - ・学生 → 教員：直接の質問のほか、メール（下記）でも受け付ける。
- ◇ 教員の自己紹介
- ・氏名：長谷川晴生（はせがわはるお）
  - ・専門：ドイツ文学、ドイツ思想
  - ・ウェブサイト：<http://hhasegawa.la.coocan.jp/>
  - ・メール：[tokan@nifty.com](mailto:tokan@nifty.com)

**連絡先など**

教員のメールアドレス：[tokan@nifty.com](mailto:tokan@nifty.com) 授業のウェブサイト（進捗表示、配付資料あり）：<http://hhasegawa.la.coocan.jp/lecture/>